

御前崎では、その特徴と地形発達史的な説明、浜町では、斜交砂丘の説明を聞いた。この日は、ユースホステルに泊つたが、私達が気が利かないので先生は、御自分で食器を洗つたりなさいました。一番おかしかつた事は(失礼)先生が空のお風呂に入り、後でその時の様子を話して下さつたことと、又駿遠線の電車の中で、銭まわしをじて遊んだことでした。

三日目、盤田原台地で露頭を観察し、次いで盤田原の末端が、沖積面の下にはぐりこんでいるという状態を、ボーリングにより観察した。渥美半島の高松一色付近では、風化赤色土、古生層の山、波状をした台地についての説明を聞き、その後崖を下りて、崖下の中広い砂洲を波の音を聞きながら、ザクザク歩いた時の気持は、とてよ良いものでした。

一色で解散後、大部分の人は、古都の京都や奈良に行き、春を楽しんできたようです。

東 北 巡 検

三 年 生

「前期の試験が終つてほつとした時に大概は巡検があることになつてゐる。今回は横手、田沢湖、秋田、涌田、温湯、村上、新潟と東北地方をぐるりとまわるコース。この目的は三年生のことだから広い地域を地形、土地利用、人文にわたりなくしかも浅く見ることだつた。」「夜行で横手へ。ここでは夫狗山断層崖を見る目的だつたが時間がなくて山の麓へたどりつくのがやつとだつた。山はグーンと手前に迫り、これがかの有名な活断層かとよく見たが、予備知識がなければ、そこらにある丘陵と見分けがつかない。

変りばえのないものを形をみたり、構造をみたりして究明するところに地理屋の楽しみがあるのかしらん。秋晴れの空を背景にしたリンゴや柿等なりよめが気にかかる。横目でジロリ。」「田沢湖はまだ観光化されていない清らかな山^奥の湖。夕方湖畔をフラつく。夕蔭がせまり黙々した山はだが水面にうつり、ひたひたした波打際、波の形をした水底かすけてみえる。岸辺は石莖や長石等白っぽい砂がしきつめられているようだ。夜駒攻科の方で二人一行に加わつた。」「翌日は秋田。秋田城跡はいき市内をみる。遠く海をへだて佐渡がみえ、手前に細長い秋田平野が広がり、八橋の赤井が高架線のように並んでいる。」「芭蕉の句、象潟や兩はセイシがぬむの花、という象潟は車中より観察。鳥海山からの泥流丘に形のよい松が生えているが、地盤変動によりかつての美景はなくなつて水田に化していた。すでに頂上付近は雲をおさくつきりとした輪郭をとつた鳥海山が美しい。」

